（様式２）

令和５年度　〔　自己評価報告書　〕

学校番号	学校名	校長名
1	川崎市立　大師　中学校	森島　烈

学校教育目標	今年度の重点目標
一　責任を重んじ、着実に仕事を続ける人 一　正しい判断のもと自律的に行動できる人 一　情操豊かな社会性に富んだ人 一　健康で自主的生活のできる人 一　愛情と感謝の心の持ち主	①　生徒一人ひとりを支える体制の充実 ②　確かな学力の育成 ③　豊かな心をはぐくむ教育、人権教育の推進

評価項目		具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	教育課程 学習指導	○四月当初、異動者も含めて全員で本校の学習評価についての研修を行った。また、各教科で時間割を調整し、お互いがみれるようにし、その後意見を伝え合うミニ授業研を行った。 ○キャリア在り方生き方教育では、１年生が地域学習、２年生が職場体験学習、３年生が日本の文化に触れる・進路学習など、ようやく予定通り行うことができた。また、１年生では２年次の職場体験学習につながるように、「技能職者に学ぶ」を行い、30名を超える講師の方々に来校してもらい、興味をもって選択した生徒たちにその仕事についての話をしてもらった。 ○ギガ端末の利用に関しては、生徒総会や集会、冬休みのしおりなど、学校全体での利用は定着してきた。 ○音楽で研究推進を受けているが、音楽にとどまらず、全教科でテーマに迫るために工夫をすることで、授業力の向上に努めた	○キャリア在り方生き方教育では特に１年生が、川崎の①歴史・文化②産業・交通③食べ物・名産④自然というテーマで調べ学習を行い、地元の「大師」にかかわるものも多く、非常に良い学習ができた。 ○職場体験学習については、３年間できていなかったが、ようやく実施することができた。生徒はもちろん、受け入れていただいた職場からも好評であった。来年度からはしっかり継続していきたい。 ○各教科でのギガ端末の利用については、各教員によって使用頻度に違いがある。 ○音楽の研究テーマ「学びに向かう力を育て、豊かな心と社会性を養う」に対して、各教科でもどのように取り組んでいくのかを考えることで、学校としての取組となった。 ○今年度はじめたミニ授業研は非常に有効であった。	○評価については、常に研修が必要である。基本の「指導したことを評価する」指導と評価の一体化をあらためて確認していく。また、日常の中で生徒としっかりとコミュニケーションをとらせるとともに、教科ごとに大きな違いがないよう、連携をしっかりと行う。 ○来年度は分掌の仕事にオンライン化に向けた取組を設け、各学年のＧＳＬとともに、端末利用とオンライン化を推進していきたい。 ○日常の授業の中でさらにギガ端末を使いながら、生徒に対しての情報モラル教育を徹底していく。 ○授業を１時間単位で捉えるのではなく、単元を意識し、その数時間の中で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでいく。 ○川崎１００周年に向けて、負担のない中で取り組んでいきたい。
2	生徒指導・ 生徒理解	○本校の実態を踏まえた生徒指導に関する校内研修の充実につとめた。 ○欠席が続いた生徒については、常に共有させ、その都度、教育相談を行い、生徒の心のケアに努めた。日々の学校生活の中で継続的に関わることを大切にしながら、生徒理解に努めた。 ○保健室やスクールカウンセラー、外部諸機関との連携を推進した。 ○ＳＮＳでのトラブルが多い。比較的発見が早く大事には至っていないが、生徒との信頼関係の構築と共に、日常の中での情報交換・共有の大切さを痛感している。 ○学校で過ごす際の服装について、5類変更に伴い、教師だけで決めるのではなく生徒にも端末でアンケートをとり、先生方で話し合いをし、生徒の意見を尊重した。	○不登校生徒への丁寧な対応を進めるために登校支援記録票を活用し、家庭訪問や電話連絡時の様子を記録して、生徒・保護者との対応に役立てた。また、月に1回不登校対策委員会を開催し、生徒の状況の共通理解に努めた。 ○学校での過ごし方やいわゆる校則の見直しなど、さらに生徒と共に考えていきたい。	○誰か一人に頼るのではなく、常に「チーム大師」を意識して職員が一つになり、生徒一人一人が抱える課題を共有化し、連携した指導を進める中で、温かく丁寧な指導・対応が実践できる組織作りを引き続き進めていく。 ○情報の共有化については、忙しい先生方なのでどうしても放課後になってしまっていた。職員室にいつもいる教頭や校長が情報を確認し、すぐに当該学年や関係者に伝えたことでより早く対応できるようになった。来年度も続けていきたい。 ○不登校生徒への対応を担任だけに任せるのではなく、学年を中心とした組織で支援ができるようにしていく。 ○保健室やＳＣ、子どもサポート旭町、児童相談所、区役所など外部諸機関との連携を今後も深めていく。
3	健康・安 全教育	○5類に変更にはなったが引き続き、手洗い、換気の徹底を行うことで感染防止に努めた。 ○個々の生徒の情報を共有し、アレルギー対策の研修を行うなど、安全な給食実施を推進した。また、エピペンの研修会も実施した。 ○夏場は、暑さ指数(ＷＢＧＴ)の測定を毎日、朝、昼、午後と行い、記録を必ず残すようにし、熱中症対策に努めた。 ○保健だよりを定期的に発行するとともに、健康教育の授業を計画的に行った。 ○防災教育では、校内防災対策委員会主催で年４回の避難訓練と不審者対策を実施することができた。	○冬場は授業中の防寒着の着用を引き続き認める中で、換気を徹底した。特にCO2濃度の測定を各学級で行い、換気の参考にした。 ○健康管理の徹底や熱中症・アレルギー対応（エピペンの使用方法、心肺蘇生法）さらには、LGBTQについての職員研修を実施する中で、事故防止とともに、職員の意識改革に努めた。 ○保健室利用者の中には、心のケアの必要な生徒も多く、スクールカウンセラーや教員との連携役として、養護教諭の果たした役割が大きい。 ○避難訓練では、津波対策としての垂直避難も行うことができた。いつ来てもおかしくない天災に向けて、しっかりとした準備を今後も続けていきたい。	○アレルギー対応では、命にかかわることがあることを職員に徹底するとともに、今年度も夏にエピペンの職員研修を行うことができた。実際にどのように使うのか、わかっていない職員もいたので、継続していきたい。心肺蘇生法研修についても実技を交えて行うことができた。 ○基本的な生活習慣の確立と新型コロナウイルスやインフルエンザ対策としての、手洗い、換気などは引き続き徹底し、健康安全への関心を高め、自己の健康管理ができる能力を身につけさせるように努める。 ○保健室とＳＣ・支援ＣＯ・担任・学年との連携を深め、生徒支援・生徒理解に役立てていきたい。
4	支援教育	○支援教育ＣＯの授業時間を工夫することで、支援の必要な生徒・保護者への教育相談がより充実し、日々情報共有を行い指導に生かした。 ○学校に来にくい生徒の居場所としての学習室が機能するようになり、他人や学年の先生なども巡回中に声掛けに来るようになり、生徒たちからも好評であった。 ○不登校対策委員会を定期的に開催し、個々の事例を確認した。	○学習室はまだまだ少ない利用人数ではあるが、中には教室復帰を果たした生徒もおり、効果は確実にあると考えている。また、教室に立ち寄り、勉強を教えてくれる先生が増えたことで、生徒たちの励みとなった。来年度は時間割上に学習室を位置づけ、より多くの先生方がかかわることで、生徒たちを学校全体で見守っていきたい。また、そのことで、教員自身も支援教育の視点を踏まえた学校運営を意識してもらいたいと考えている。 ○毎月１回の不登校対策委員会の内容をさらに深いものとして、それぞれの生徒に合った効果的な対策なども考えていきたい。	○学習室の利用生徒が少しずつ増えてきてはいるが、潜在的な利用生徒はまだまだいるはずである。入学式や新入生保護者説明会、小学校との情報交換時など、あらゆる機会でアナウンスをし、今以上に認知してもらうようにしていく。 ○各クラスにはまだまだ支援を要する生徒が多くいるはずである。「教員の目」を磨き、見守る姿勢を出し、より多くの生徒が安心して、自分を出せるようにしていきたい。
5	研修	○生徒指導研修会を通して、生徒が抱える課題改善に向けて、より良い指導・改善策を全体で考え、指導力の向上を目指した。 ○体罰防止・不祥事防止に向けた研修会を行うとともに、朝の打ち合わせや職員会議でも、新聞記事を紹介するなど、ことあるごとに意識させた。	○個々の生徒が抱える課題を共有することで、学校全体で生徒を支えるという意識付けになった。今後も継続していきたい。 ○不登校の生徒も多いが、今年度はＳＣによるカウンセリング研修を職員向けに行い、一人一人の資質向上に努めた。 ○体罰・不適切な指導などの不祥事防止に向けては、ことあるごとに校長が話をすることで、職員にも意識が広がったと考えている。	○今後もさまざまな校内研修を行うことで、教職員の指導力や規範意識等、資質・能力の向上に努める。 ○支援教育をさらに充実することで不登校の改善につなげる。
6	保護者・ 地域社会 等との連 携	○ようやく地域行事も復活してきており、夏祭り等も多く開催され、PTAと共にパトロールも復活した。また、授業参観や懇談会、体育祭、合唱コンクールなども、厳しい入場制限もなく行うことができた。 ○「かわさきねんりんピック」では吹奏楽部が招待され、演奏を行い、大好評であった。また、子どもたちもコンクールとは違う楽しさを味わうことができた。 ○定期的な学校だよりや学年だよりの発行を続けることで、少しでも学校の情報を保護者・地域に伝えた。 ○月１回の地域見守り活動は継続して行った。	○昨年度復活した、民生委員との情報交換を今年も行うことができた。学校の状況や学校の日常の取組を伝えるとともに、地域からの率直な声も聴くことができ、大変有意義であった。 ○学校だより、学年だよりなどを発行し、情報の発信に努めた。	○職場体験学習を4年ぶりに行うことができ、地域の方々の温かみに、生徒がじかに触れることができた。来年度も「今できること」を相談しながら、地域の方々と共に学校運営に臨みたい。 ○本校の教育実践を保護者・地域に積極的に公開することで、地域の中の学校としての信頼を得られるよう教育内容の充実に努める。 ○保護者アンケートではいろいろな意見を頂いた。検討を加え、来年度の学校運営に生かしていく。
7	働き方改革	○会議の精選や会議時間の見直しなどを行い、職員の健康の保持増進に努めた。	○会議の持ち方の工夫や、ノー部活デーなど、少しでも職員の在校等時間を減らせるように考えたが、時間があれば別の仕事をする仕事熱心な先生方も多く、結果としては大きく改善はできなかった。	○先生方の働き方改革はまだまだ課題が山積している。5時間制、45分授業など、放課後の生徒の活動開始時刻を早めることで、部活動も早く終了し、少しでも早い時間に先生方が仕事に専念できるような工夫を、来年度一年間かけて検討していきたい。他校はもちろん他都市の取り組みなども参考にし、仕事量自体を減らす工夫をしていきたい。

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ　・　次年度へ向けて
○文化祭や体育祭など、生徒中心に良く頑張っていると感じている。また、日頃の活動も地域と共にあり、今後も地域でもフォローしていきたい。 ○学校評価アンケートでは、「生徒の皆さんの学校生活をより良くするためには、先生方（学校側）と保護者との関係が良好であることが大事だと実感しています。これからも、PTAの関係が良好であることを願っています。」「町会役員として学校、生徒さんには気配りしております。」 など前向きな意見や、支えていただいていることがわかる意見をいただいた。	○生徒指導担当を中心により、「チームで対応」という案件が増えてきている。落ち着いた状況で赴任してきた先生方がほとんどなので、対応の仕方なども教え、伝えながら、抱え込まずに「チームで」をより徹底していきたい。また、心に課題を抱え、生徒理解を深める必要がある案件は数多く上がっている。引き続き教育相談を活用しながら、日常の見守り活動で、生徒の細かい変化をとらえ、情報を共有化し、連携した指導を進める中で、温かく丁寧な指導・対応ができる組織作りをさらに進めていきたい。 ○不登校生徒に対しては、学習室の活用をさらに充実すると共に、登校支援記録を今後も活用し、担任のみならず学年、養護教諭、支援コーディネーター、SC等、さらには、子どもサポート旭町や児童相談所、大師支所など関係諸機関とも連携を密にする中で、学校全体で取り組んでいきたい。 ○先生方が、少しでも心に余裕を持てるように、改めて部活動ガイドラインの徹底と共に、仕事の進め方・働き方改革を推進し、働きやすい職場環境作りをさらにめざしていく。